

[年度] 平成27年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] 和歌山特産野菜の栄養・機能性評価

[担当機関名] 農業試験場 環境部

[連絡先] 0736-64-2300

[専門分野] 野菜

[分類] 普及

[背景・ねらい]

農産物の販売方法が多様化している中、栄養成分や機能成分をアピールする取組が多く見られ、他県では五訂食品標準成分表（文部科学省編集）に記載されているビタミンC含有量（以下、五訂値）より高い農作物を認証し、販売促進に役立てる取組もみられます。

そこで、和歌山県においても県産野菜の付加価値を高め、有利販売に繋げるために、栄養成分に着目し調査を行いました。

[研究の成果]

1. 那賀地域のイチゴ‘まりひめ’に含まれるビタミンC含有量は、1月に最も高くなり、4月にかけて減少する傾向がみられ、五訂値（果実100g中に62mg）と比較すると、収穫期間を通して13mg以上（21%以上）多く含まれます（図1）。
2. 日高地域のミニトマト‘キャロル7’に含まれるビタミンC含有量は、1月に最も低くなり、その後5月にかけて増加する傾向がみられ、五訂値（果実100g中に32mg）と比較すると、収穫期間を通して高く、特に1月以外の月で16mg以上（50%以上）多く含まれます（図2）。

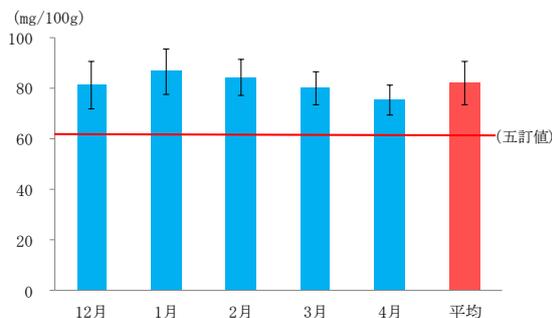


図1 イチゴ‘まりひめ’の
ビタミンC含有量の推移

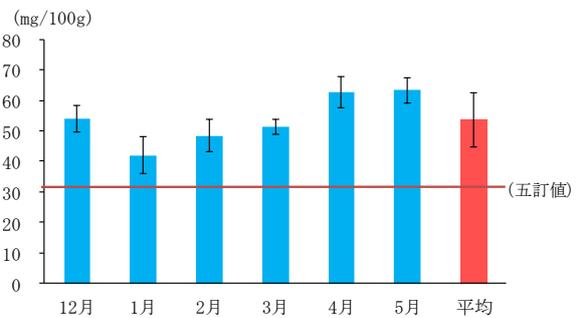


図2 ミニトマト‘キャロル7’の
ビタミンC含有量の推移

3. イチゴ‘まりひめ’とミニトマト‘キャロル7’は、糖度とビタミンC含有量の間には正の相関が認められます（図3、4）。

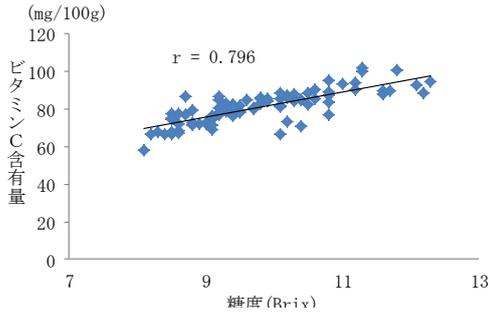


図3 イチゴ‘まりひめ’の糖度と
ビタミンCの関係

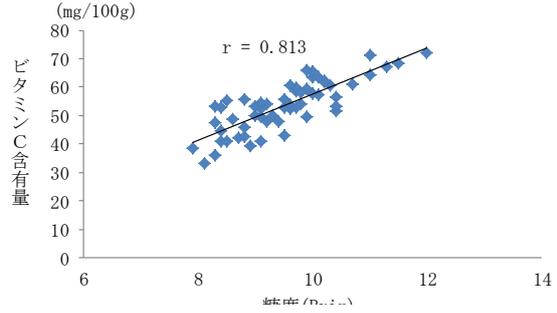


図4 ミニトマト‘キャロル7’の
糖度とビタミンCの関係

4. 日高地域のミニトマト‘キャロル7’に含まれるグルタミン酸は、12月から5月までの期間を通じてトマトの五訂値（果実100g中に230mg）より110mg以上（48%以上）多く含まれます（図5）。

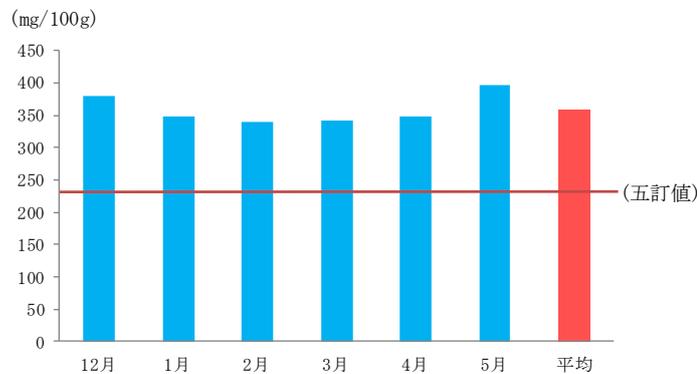


図5 ミニトマト‘キャロル7’の
グルタミン酸含有量の推移

[成果のポイントと活用]

1. 那賀地域のイチゴ‘まりひめ’と日高地域のミニトマト‘キャロル7’はビタミンC含有量が五訂値より高いことから、消費宣伝の材料としての活用が考えられます。
2. イチゴ‘まりひめ’とミニトマト‘キャロル7’は糖度が高いほどビタミンCが高いことから、糖度を測定することでビタミンC含有量を簡便に推定する基礎資料にできます。
3. 「成分含有量」や「糖度とビタミンCの相関」は年次変動が予想されます。
4. 日高地域のミニトマト‘キャロル7’はグルタミン酸が多く含まれるため、より旨味が強いことが期待されます。

[その他]

予算区分：県単(農林水産業競争力アップ技術開発事業) 研究期間：平成25～27年

研究担当者：岡田武彦、三宅英伸、林恭平、林恭弘

発表論文等：なし

ホームページ掲載の可否：可